



未来を共創する 21 世紀型 Online Academy **無学年制**

Asteria

Z会アステリア



英語 4 技能講座 p.6

数学新系統講座 p.10

総合探究講座 p.14

変化が加速する時代。教育も大きく変わろうとしています。

今の中高生が働きざかりとなるころ、社会はどうなっている？

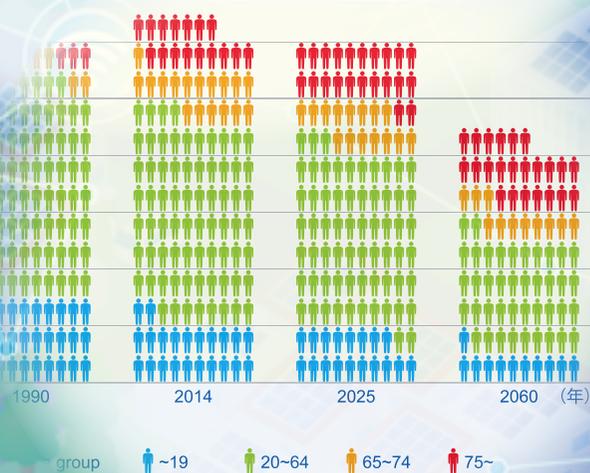
インターネットの登場以後、わたしたちの社会の常識は大きく変わりました。今や、人工知能が囲碁や将棋で人間との勝負に勝ったり、自動運転の技術が実用化に向けて進んでいたり、VR（仮想現実）やAR（拡張現実）によって今までできなかった経験が可能になったりと、テクノロジーの進歩はとどまるところを知りません。いま最先端の知識や技術、勢いのある産業や職業も、あっという間に古くなっていく可能性もあります。新しい技術が生まれれば、それに伴って新たな課題も生まれ、解決に向けた合意形成やルールづくりも必要となることでしょう。

国内に目を向ければ、少子化が止まらない日本では、2050年ごろには人口が1億人を下回り、労働力人口はピークだったころの8000万人から5000万人まで減少すると考えられています。今の中高生たちは、かつてないほど急激に人口減少が進む社会で壮年期を迎え、これまでの3分の2ほどの労働力で、社会を担っていくことになるのです。

また、人口減少は都市部より地方において影響が大きく、生活関連サービスの縮小による利便性の低下、雇用機会の減少などからさらなる人口減少を招き、地域間の格差が広がる可能性も指摘されています。

労働力人口が減る一方で、外国人労働者数は毎年増加。観光のために日本を訪れる外国人も急速に増えて、「多文化共生社会」に向けた意識改革も必要となってきています。企業活動のグローバル化も進んでおり、言語・文化の異なる人たちとともに仕事を進める時代になりつつあります。

このように多くの課題があるなかで、教育はどうあるべきでしょうか。



求められる学力、教育・入試はどう変わる？

知識労働の多くが、人工知能やコンピュータに代替されてゆく時代。当然ながら、求められる学力も変わってきます。インプットした知識から正解を素早く出すことよりも、問題の本質は何かを見極め、解決すべきテーマを自ら発見する力や、簡単には答えの出せない課題であっても強い意志をもって学び考え抜く力、多様な人々と協働して、課題解決の道すじを切り拓く力こそが重要になるのです。

教育改革の“本丸”として、大学入試改革が検討されているのも、そのためです。大学入試が変わらなければ、中学・高校における教育改革も進まないからです。

具体的には、これまで問われていた「知識・技能」に加え、「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」が“学力の3要素”と呼ばれ、評価の対象となります。

マークシート式のセンター試験に替わって2020年度から実施される「大学入学共通テスト（仮称）」では、数学と国語で記述式問題を出題。英語は「聞く・読む・話す・書く」の実践的な4技能重視の方針により、文部科学省が認定する民間の検定試験に移行することが発表されており、「話す・書く」力、つまり表現力が評価されるようになります。さらに国立大学の個別試験でも、自由記述式問題として、答えのない問いに対して論拠を示しながら意見を述べるといった出題が増える見込みです。

また、東京大学・京都大学などが、高校時代に行った調査・探究活動などの実績や、ディスカッションや小論文で受験生を多面的に評価する推薦入試をすでに実施しています。（京都大学での名称は「特色入試」）国立大学協会は、2021年度までに推薦入試やAO入試での入学定員を30%まで拡大することを公表しており、「自分は〇〇を学びたい」「〇〇で社会に貢献したい」という強い意志が重視される傾向はますます広がっていくことでしょう。こうした入試選考の方法は海外のトップ大学では当然のように実施されているもの。日本の大学も、21世紀の教育のあるべき姿を目指して変わろうとしているのです。

次のページでは、このような時代の「家庭学習」について考えます。

貴重な時間を、入試にも、その先の未来にもつなげるために。

社会の空気を敏感に感じとっている中高生たち。彼らは勉強という目の前の課題に取り組みながらも、それがなぜ必要なのか、何のために学ぶのかと考え、学ぶことと自分の将来・社会とのつながりを見いだそうとしています。彼らの貴重な時間を、ただ入試だけをゴールとするような学びで終わらせてはいけない。Z会は、未来を自分で創りだそうとする意志に応えるパートナーとして、最高の学びの場を提供したい——。そうした想いのもと、テクノロジーと長年の指導実績の融合によって誕生したのが Asteria です。

以下は、2017年6月実施の Asteria 受講者アンケートで寄せられた声からご紹介しています。



未来は今よりも世界が近く、仲良くなっていると思います。今はたくさんの問題を抱えていますが、それも技術の進歩などで解決することができるはずだと信じています。だから、私はまず英語を得意にしたい。Asteriaは、映像を見て問題を解いたりできて、すごく楽しく学べます。
(長野県・中1)

今している勉強は、社会に出ていくために最低限必要な知識だと思う。はじめ興味のなかったことも、深く学ぶうちに楽しくなってくることもある。そんなとき、充実していると感じる。Asteriaは、間違えてもいい代わりに、何度も解くことが大事だと思ってやっている。(兵庫県・中1)



勉強とは、論理的思考力を養うためにするものだと思う。実際、数学に興味をもち始めてから、今までより物事を論理的に考えられるようになった気がする。Asteriaの「数学新系統講座」を始めたのは「意欲があればどんどん学習を進めることができる」という点に魅かれたから。ただ知識を教えるのではなく、なぜそうなるのか、それはどんなことに役立つのかを教えてくれるので良い。
(東京都・中1)



やりがいを感じながら、人生を楽しんで生きていくために、今、何をしたらいいんだろう。それはまだわかりません。でも、未来は、自分で変えるものだと考えてもいます。今、勉強していることが、いつか将来につながれると思います。(愛媛県・中2)



Asteria 3つの特長

アダプティブ学習と個別指導で、つねに最適な学びが可能。

「英語4技能講座」「数学新系統講座」には、米国 Knewton, Inc. のアダプティブエンジンを搭載。理解が不十分な場合は復習へ、理解できたら次の学習へ。さらに、学習の節目にはオンラインでの個別添削指導も。すべての人が、自分にとって「ちょうどいい」。あなただけの学習が始まります。

学年を問わず、1人ひとりが力を最大限に発揮できるように。

いずれも無学年制のため、現在の学年や固定のカリキュラムなどの枠にとらわれることなく、個人のペースで学習を進めていただけます。「英語4技能講座」「数学新系統講座」では、中学生のうちに高校範囲を学習するといったことも可能です。

入試にも、社会でも役立つ本物の学力を。

「総合探究講座」はもちろん、英語・数学でも、学ぶことと社会との結びつきを重視。今後の社会変化や教育・入試改革も見越し、従来の教科学習を超えた内容を扱います。今の学びが社会や将来に直結すると実感でき、だからこそそもっと学びたい——未来につながる本質的な学力が身につきます。

* Asteriaとは、ギリシャ語で「星座」を意味する言葉です。この講座で学ぶ1人ひとりが星のように輝き、さらに学びによって知識・人・社会をつなぐことで、夜空を照らす星座のように未来を輝かせてほしいという願いを込めています。